

アルミ原料の需給は余剰気味か

アルミ
輸入二次合金と合金スクラップ増加

橋本健一郎氏

八月前半は、サウジアラビアがアジア顧客向けの原油価格を引き下げたことを嫌気し WTI 原油が一時四〇ドル割り込んだことや、イタ

リア銀行の不良債権問題などのマイナスマaterialもあつたが、六月の米個人消費が前月比〇・四％増加、予想の〇・三％増を上回る。個人所得は前月比〇・二％増加したと、日本政府はインフラ整備中心で二・八・一兆円の大型の経済対策を決定したと、六月のユーロ圏 PPI は前月比〇・七％上昇、予想の〇・四％上昇を上回ったことを好感し LME アルミ相場は UP、八月十六日時点で、六七・一ドル(現物後場買入)と月初価格から三四ドル DOWN の前半締めとなった。

後半は、八月の米 ADP 民間雇用者数は一七・七万人増加、七月の米中古住宅販売仮契約指数は前月比一・三％上昇するなどのプラス材料もあつたが、九月の米利上げ観測や ISM が発表した八月の米製造業景況指数は四九・四と前月から三・二ポイント低下し、半年ぶりに DOW N、八月五日現在で LME アルミ(現物後場)は一、五八・一五ドルと後半スタート価格から七九ドル DOWN してのスタートとなった。

◆月間のドル/円レート (TTS)
一〇三・三四→一〇三・九二(円)。

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比四・二％減の八〇万・九二八台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比五・七％増の二二万三、二七三台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比八・九％増の八万五、二〇八戸であつた。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比四〇・九・八％増の二七五t、二次合金が一・二・四％増の一、六五一t、スクラップが一・二・七％減の九、六〇八t、アルミ缶が九・五％減の四、二二二t。

輸入

輸入は新地金が前年比五・六％減の一・二万〇、二六〇t、二次合金が八・六％増の九万二、三八一t、スクラップが四二・五％減の

四三八t、合金スクラップは三・四％増の三、〇六九t。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比三・七％減の一七万四、六八九t。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比四・六％減の六万六、九九六tであつた。

■概況

【自動車生産】

七月の四輪車生産台数は八〇万七、一六五台で、前年同月の八四万・一、九二八台に比べて四・一％の減少となり、二カ月連続に前年同月を下回った。七月の車種別生産台数は、乗用車六八万九、四五〇台で二・六％の減少となり、二カ月連続のマイナストラックは一〇万五、四八六台で三％の減少となり、一五カ月連続のマイナスパスは二二万二、二九九台で四・五％の減少となり、八カ月連続のマイナス。

【自動車販売】

八月の国内自動車販売台数(軽除く)は二二万三、二七三台で前年比五・七％増と、一カ月ぶりプラス。うち乗用車五・五％増、貨物六・七％増、バス九・三％増。

【住宅着工数】

平成二十八年七月の住宅着工戸数は八万五、二〇八戸で、前年同月比で八・九％増となった。また、季節調整済年率換算値では一〇〇・五万戸(前月比〇・一％増)となった。

・住宅着工の動向については、前年同月比で先月の減少から再びの増加となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となった。

・引き続き、今後の動向をしつかりと注視していく必要がある。

【持家】

前年同月比では六カ月連続の増加(前年同月比六・〇％増、季節調整値の前月比では一・三％増)。

【貸家】

前年同月比では九カ月連続の増加(前年同月比一一・一％増、季節調整値の前月比では六・八％増)。

【分譲住宅】

前年同月比では先月の減少から再びの増加(前年同月比九・一％増、季節調整値の前月比では八・四％減)。(六面へ続く)

(四面より続く)

【アルミウム二次合金・同合金地金等生産実績】

生産は前年比四・六%減の六万六、九九六tと五カ月振りマイナス、出荷は四・八%減の六万七、五九〇tと五カ月振りマイナス。

うち、出荷先別では、鋳物八・七%減、ダイカスト二・八%減、板九・二%減、押出二四・一%減、鉄鋼六・六%増、合金地金メーカ一・五%減。

【アルミ圧延・押出品生産数】

三・七%減と二カ月連続マイナスの一七万四、六八九t。

【輸出】アルミ新地金が前年比四〇九・八%増の二七五t、二次合金が一・四%増の一、六五一t、スクラップが一・七%減の九、六〇八t、アルミ缶が九・五%減の四、二二二t。

【輸入】アルミ新地金が前年比五・六%減の二万〇、二六〇t、二次合金が八・六%増の九万二、三八一t、スクラップが四二・五%減の四三八t、合金スクラップが三・四%増の三、〇六九t。

【見通し】

・自動車は生産が四・一%減。八月の国内販売台数が前年比五・七%増。生産が二カ月連続マイナス、販売が一カ月ぶりプラス。販売が再びプラスに！

・住宅着工の動向については、

前年同月比で先月の減少から再び増加となり、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となった。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

・アルミ圧延・押出品は生産・出荷共にマイナス。出荷が三カ月振りマイナス。

・アルミウム二次合金・同合金地金等生産実績は、生産・出荷ともに五カ月ぶりにマイナス。

・輸出は内需の低迷を受けて新塊、二次合金は大幅増加。スクラップ・アルミ缶は円高要因から減少。

・輸入は内需の低迷や円高から減少。ただし自動車関連の二次合金・合金スクラップは共に増加。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、お盆休み前のリスク売り込みからほぼなく、少ないものの、円高を受けての安い輸入塊の流入から需給は過剰気味になるのではない。

【価格・為替予想】

今月は、中国経済の動向とG二〇に左右される。

中国経済に関しては、中国国家統計局の六月

のPMIが五カ月ぶりに四九・九と五〇を割った事やG二〇で過剰生産供給についての提言があるのではないかと今後の動向に注目。

G二〇に関しては、中国の過剰生産供給への提言と為替政策がポイント。

前記表題について中国が一定の理解を示すのではないかと？

為替に関してはやはり通貨の切り下げ競争への警告あり、円高阻止はむずかしいのではないかと？

それらを踏まえた九月のアルミ価格は、七月のPMIが五〇を超え、G二〇で中国が過剰生産などについて一定の理解を示した場合、一、七〇〇ドルを予測。いずれの場合も一、六〇〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合八月安値の一、五五〇ドル。

為替は八月の雇用統計で非農業雇用者数は一五万一千人と予想の一八万以下だったことから九月の米利上げ観測の後退や、G二〇で為替介入へのけん制が予想されることから円高が続くのではないかと。

それらを踏まえ予測は、上値は日本が何らかの為替対策結果的に一切行えず、九月の米利上げがなかった場合一〇〇円台(TTM)を予測。両条件が揃わなかった場合八月安値の一〇四円を予測。

スクラップ購買価格に関しては五円安々〇円程度と予測している。

一致指数、二カ月連続改善

七月の景気動向指数・内閣府

内閣府が七日発表した七月の景気動向指数(二〇一〇年一一〇〇)速報値は、景気の現状を示す一致指数が前月比〇・七ポイント上昇の一・二・八となり、二カ月連続で改善した。自動車の出荷増などで消費関連の指標が伸びた。

基調判断は「足踏みを示している」に据え置いた。「足踏み」の表現は一五カ月連続。

一致指数の構成指標では、前月と比較可能な七指標のうち四指標がプラスに寄与した。このうち耐久消費財出荷指数は、熊本地震の影響を受けていた自動車生産の回復や、猛暑に伴うエアコンなどの需要増で前月を上回った。商業販売額(小売業)は百貨店のセール前倒し効果で改善、鉱工業用生産財出荷指数は鉄鋼や化学などを中心に伸びた。

一方、有効求人倍率は改善ペースが鈍化したことで、一致指数にマイナスに寄与。投資財出荷指数(輸送機械除く)も悪化した。数カ月先の景気を示す先行指数は、〇・七ポイント低下の一〇〇・〇だった。消費者心理や在庫関連指標の悪化、株価の動向などが影響した。